

加茂法話会について

定光寺 乙川文英

令和三年十月二十二日 加茂法話会

道元禅師の言葉

古来仏法を学ぶ人、あるいは草庵に独居し、あるいは精舎に共行す。独居の輩は鬼魅魍魎に侵さるること多く、共行の人は天魔波旬に焼（なやま）せらるること少なし。未だ仏道の通塞を明らめずして、空しく至愚の独居を守る、あに錯りにあらざらんや。今常に叢林の長連牀にあつて昼夜に弁道する、魔子燒すことを得ず。鬼魅侵すことを得ず。誠にこれ善知識なり、また則ち勝友なり。〔『永平広録』六一四三八〕

瑩山禅師の言葉

仏の言く、篤信の檀那、之を得る時、仏法断絶せず云々と。また云く、檀那を敬うこと仏の如くすべし。戒定慧解、皆檀那の力に依りて成就す云々と。然るに聞く、瑩山今生の仏法修行は此の檀越の信心に依りて成就す。〔『当山尽未来際置文』〕

加茂法話会

平成六年発足「お寺の外で聴く法話」

月一回、午後七時三十分～八時三十分

聴講無料（志の箱が回る）

会場Ⅱ加茂市中央コミュニティセンター（令和三年現在）

法話者十名、聞法者約二十名（令和三年現在）

静坐・三歸礼文・般若心経・法話・普回向・四弘誓願文

三名の法話担当者が約十五分の法話

法話者以外の僧侶は講評をメモにして法話者に渡す

会場準備等は聞法者の世話人が担当

七月夏忘れ、十二月忘年会（感染症流行により休止中）